

### 3 就業や就業以外の社会活動参加と総合生活満足度

つぎに、就業することや就業以外の社会活動へ参加することと総合生活満足度(Q38)の関係を分析する。総合生活満足度の選択肢は、「満足している」「まあ満足している」「やや不満である」「不満である」の4つである。図表2が、国別に見た就業者と就業以外の社会活動参加者と総合生活満足度のクロス表である。

図表2 就業者及び社会参加活動と総合生活満足度

activity と Q38 Q38 総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。と Country 国 のクロス表

Country 国	activity	1 就業者 *	Q38 Q38 総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。					合計
			1 満足している	2まあ満足している	3やや不満である	4 不満である	5無回答	
1 日本	1 就業者 *	就業	143	78.3%	10.5%	3.4%	0.2%	100.0%
		activity の %	28.8%	57.1%				
		度数	20	12	1	0	0	33
	2 社会活動 参加者 *	就業	60	36.4%	3.0%	0.0%	0.0%	100.0%
		activity の %	91.8%	17.0%				
		度数	175	340	40	19	0	574
	3 その他	就業	105	59.2%	7.0%	3.3%	0.0%	100.0%
		activity の %	69.6%	24.4%				
		度数	338	625	93	36	1	1103
2 アメリカ	1 就業者 *	就業	269	108	12	5	2	395
		activity の %	67.9%	27.3%	3.0%	1.3%	0.5%	100.0%
		度数	135	29	1	0	1	165
	2 社会活動 参加者 *	就業	91	17.0%	0.6%	0.0%	0.6%	100.0%
		activity の %	91.8%	17.0%				
		度数	302	106	14	6	6	434
	3 その他	就業	69	24.4%	3.2%	1.4%	1.4%	100.0%
		activity の %	69.6%	24.3%				
		度数	705	242	27	11	9	984
3 ドイツ	1 就業者 *	就業	125	90	10	4	0	229
		activity の %	54.6%	39.3%	4.4%	1.7%	0.0%	100.0%
		度数	109	60	3	1	0	173
	2 社会活動 参加者 *	就業	267	257	49	11	2	586
		activity の %	93.0%	34.7%	1.7%	0.6%	0.0%	100.0%
		度数	501	407	62	16	2	988
	3 その他	就業	56	43.9%	8.4%	1.9%	0.3%	100.0%
		activity の %	45.6%	43.9%				
		度数	507	41.2%	6.3%	1.6%	0.2%	100.0%
4 スウェーデン	1 就業者 *	就業	225	132	9	0		366
		activity の %	61.5%	36.1%	2.5%	0.0%		100.0%
		度数	146	66	1	1		214
	2 社会活動 参加者 *	就業	239	163	14	4		420
		activity の %	68.2%	30.8%	0.5%	0.5%		100.0%
		度数	610	361	24	5		1000
	3 その他	就業	61	36.1%	2.4%	0.5%		100.0%
		activity の %	56.9%	36.8%	3.3%	1.0%		
		度数	610	361	24	5		1000
合計	1 就業者 *	就業	781	613	83	26	3	1486
		activity の %	51.2%	41.3%	5.8%	1.7%	0.2%	100.0%
		度数	410	166	6	2	1	586
	2 社会活動 参加者 *	就業	983	865	117	40	8	2014
		activity の %	48.8%	43.0%	5.8%	2.0%	0.4%	100.0%
		度数	2154	1645	206	68	12	4085
	3 その他	就業	2154	1645	206	68	12	4085
		activity の %	52.7%	40.3%	5.0%	1.7%	0.3%	100.0%
		度数	2154	1645	206	68	12	4085

\* 1. 就業者（仕事をしたい）

2. 社会活動参加者（仕事以外にしたいことがある）

4か国計で「満足している」の比率を見ると、社会活動参加者で70.1%と最も高く、就業者の51.2%を大きく上回っている。この傾向は、4か国それぞれに該当する。さらに、生活満足度を4か国で比較しやすいように、「満足している」を2点、「まあ満足している」を1点、「やや不満である」をマイナス1点、「不満である」をマイナス2点として、生活満足度を得点化して算出したものが図表3である。これによると、4か国計で見ると、日本の生活満足度の得点(1.040点)が最も低く、他方で、アメリカ(1.627点)が最も高くなる。さらに、就業者と就業以外の社会活動への参加者に分けて生活満足度を見ると、日本も含めて4か国とも就業者に比べて社会活動参加者の方が、生活満足度が高い。さらに、就業者と社会活動参加者の生活満足度のそれぞれを4か国で比較すると、両者とも日本の生活満足度（就業者:0.976点、社会活動参加者:1.545点）が最も低くなる。

図表3 就業者及び社会活動参加活動と総合生活満足度得点

activity	Country 国	平均値	度数	標準偏差
1 就業者 *	1 日本	.976	495	1.0098
	2 アメリカ	1.583	393	.7619
	3 ドイツ	1.406	229	.8461
	4 スウェーデン	1.566	366	.6279
	合計	1.349	1483	.8797
2 社会活動参加者 *	1 日本	1.545	33	.6657
	2 アメリカ	1.811	164	.4371
	3 ドイツ	1.578	173	.6479
	4 スウェーデン	1.659	214	.5571
	合計	1.671	584	.5692
3 その他	1 日本	1.066	574	.9374
	2 アメリカ	1.598	428	.7786
	3 ドイツ	1.233	584	.9538
	4 スウェーデン	1.474	420	.7516
	合計	1.314	2006	.8971
合計	1 日本	1.040	1102	.9683
	2 アメリカ	1.627	985	.7299
	3 ドイツ	1.334	986	.8917
	4 スウェーデン	1.547	1000	.6725
	合計	1.378	4073	.8597

\* 1. 就業者（仕事をしたい）

2. 社会活動参加者（仕事以外にしたいことがある）

最後に、就業と社会活動参加を比較した場合、いずれが総合生活満足をより大きく規定するかを分析しよう。分析手法としては、2項ロジット分析を用いる。被説明変数は総合生活満足度（ダミー変数、rq38）で、説明変数として就業（rq19）と社会活動参加（rq21）のそれぞれの有無（ダミー変数）を、さらにコントロール変数として、性別（rf1）、年齢（f2）、健康かどうか（rq4）、経済的な困難度（rq14）を投入した（年齢以外はダミー変数、Rは元の変数を変換した意味である）。なお、4か国全体の分析と日本のみの分析の2つを行ったが、前者では、スウェーデンを基準として国のダミー変数を分析に含めている。変数の加工など、図表4を参照されたい。

図表4 2項ロジット分析に利用した変数

- 被説明変数 : rq38 生活満足  
1 = 1 (満足) + 2 (まあ満足) 0 = 3 (やや不満 + 4 (不満))
- 説明変数  
rf1 男性 = 1 女性 = 0  
rq21 仕事以外にしたいことがある = 1、それ以外 = 0  
rq19 仕事をしたい = 1、それ以外 = 0  
f2 = 年齢(60歳から98歳)  
rq4 健康である = 1、それ以外 = 0  
rq14 経済的困っている 1 = 1 + 2、それ以外 = 0

まず、4か国のデータで分析した図表5から見ていく。就業していることは、統計的に有意ではない。つまり、就業は、他の変数をコントロールすると、生活満足度に影響するとは言えないことになる。他方、社会参加活動は統計的に有意で、社会参加活動を行うと、生活満足度は2.98倍になる。統計的に有意な他の変数を見ると、健康であると生活満足度が3.25倍になる。国の変数をみると、日本とドイツが統計的に有意で、それぞれの国だとスウェーデンを基準として、生活満足度が低下する方向に影響する。

図表5 生活満足の規定要因（2項ロジット分析：4か国）

モデル要約				モデル係数のオムニバス検定			
ステップ	-2対数尤度	Cox-Snell R2 乗	Nagelkerke R2乗		カイ2乗	自由度	有意確率
1	1651.711 <sup>a</sup>	.084	.215		355.648	9	.000
a. パラメータ推定値の変化が.001未満であるため、反復回数7で推定が打ち切られました。							
方程式中の変数							
ステップ1 <sup>a</sup>	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)	
「社会活動参加」 rq21	1.091	.375	6.452	1	.004	2.977	
rq1	-.116	.136	.727	1	.394	.891	
「就業」 rq19	-.050	.154	.104	1	.747	.952	
F2	.009	.009	.842	1	.359	1.009	
「健康である」 rq4	1.177	.154	58.737	1	.000	3.246	
rq14	-1.670	.139	144.873	1	.000	.188	
「日本」 日本ダミー	-1.243	.220	32.005	1	.000	.288	
「アメリカ」 米国ダミー	.192	.262	.540	1	.462	1.212	
「ドイツ」 独国ダミー	-.500	.233	4.586	1	.032	.607	
定数	2.670	.740	13.031	1	.000	14.446	

a. ステップ1: 投入された変数 rq21, rq1, rq19, F2, rq4, rq14, 日本ダミー, 米国ダミー, 独国ダミー

次に日本のみのデータで分析した図表6を見よう。4か国全体と日本のみでは、分析結果が異なる。社会活動への参加は、生活満足に対してそれを高める方向に影響するが、統計的に有意ではない。他方、就業は、統計的有意であるが、生活満足度を低下させる方向に影響する。同じく、経済的困難であることは、統計的に有意で、生活満足度を低下させる方向に影響する。健康であることは、統計的に有意で、健康であると生活満足度を2.53倍高めることになる。

図表6 生活満足度の規定要因（2項ロジット分析：日本）

モデル要約				モデル係数のオムニバス検定			
ステップ	-2対数尤度	Cox-Snell R2 乗	Nagelkerke R2乗		カイ2乗	自由度	有意確率
1	679.610 <sup>a</sup>	.100	.194		115.842	6	.000

a. パラメータ推定値の変化が .001 未満であるため、反復回数 6 で推定が打ち切られました。

### 方程式中の変数

ステップ1 <sup>a</sup>	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp(B)
「社会活動参加」 rq21	.705	1.048	.452	1	.501	2.023
rf1	-.119	.204	.339	1	.560	.888
「就業」 rq19	-.486	.232	4.396	1	.036	.615
F2	-.016	.015	1.112	1	.292	.985
「経済的困難」 rq14	-1.779	.205	75.258	1	.000	.169
「健康である」 rq4	.928	.212	19.189	1	.000	2.530
定数	3.551	1.150	9.534	1	.002	34.832

a. ステップ1: 投入された変数 rq21, rf1, rq19, F2, rq14, rq4

### 5 まとめ

- ① 日本は、他の3か国に比較して、高齢期でも就業者が多いが、他方で、就業以外の社会活動への参加者が少ない。そのため、就業者と就業以外の社会活動への参加者を合わせて広義の社会活動参加率とすると、男女計でその比率が最も高い国はスウェーデンである。さらに、男女別でも日本が広義の社会活動参加率が高い国ではない。
- ② 生活満足度得点を4か国で比較すると、日本の生活満足度得点が最も低く、他方で、アメリカが最も高い。就業者と就業以外の社会活動への参加者の生活満足度を見ると、日本も含めて4か国とも就業者に比べて社会活動参加者の方が、生活満足度が高くなる。就業者と社会活動参加者のそれぞれの生活満足度得点を4か国で比較すると、両者とも日本が最も低い。
- ③ 統計分析によると、4か国のデータでは、就業することは、統計的に有意でなく、他の変数をコントールすると、生活満足度を左右するとは言えない。他方、社会活動へ参加することは、統計的に有意で、生活満足度を高めることになる。日本のみのデータで分析すると、社会活動への参加は、生活満足を高める方向に影響するが、統計的に有意ではない。他方、就業することは、統計的有意であり、生活満足度を低下させる方向に影響する。
- ④ 以上によると、高齢期になったときに就業するという選択肢だけでなく、就業以外の社会活動への参加する機会を選択できるように、高齢期に到達する前から、就業以外での社会との繋がりを広げる取り組みを行うことは、高齢期における生活満足度を高めることに貢献すると考えられる。